



受け継がれる記憶

—FOLKLORE MUSEUM—

指導教員 吉松秀樹教授



5AEB2126 鶴巻 穂

1. 問題意識

東京には人々の生活や空気が作り出す魅力的な空間がたくさん存在している(fig.1)。これらの空間は都市の中に隠れていて「開いているが閉じている」状態であると感じる(fig.2)。この空間の存在を再認識させたい。



fig.1 魅力的な空間



fig.2 閉じて見える

2. 調査・分析

開いているが閉じている空間は、元々存在していた古い家屋や商店が大通りや駅周辺の建て替えで取り残された状態の場(fig.3)とその場所自体は開いているが特定の人以外に興味・関心を持たれず狭い認識での開いた空間となっている場(fig.4)に分類される。



fig.3



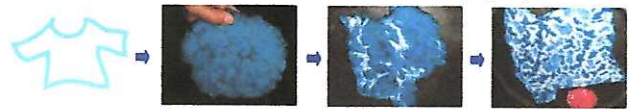
ig.4

3. 考察

伝統とは古くから伝わる技法や技能を現代に生かすことである。これら空間は時間の経過と共に結果的に閉じた空間になってしまったがそれぞれの存在方法で場所性を保ってきた伝統的空間と言えるのではないかと？

4. 手法・提案

絞り染め(TieDye)の手法を用いる(fig.5)。



ig.5 TieDyeの手法

縛られていて染色されなかった部分=魅力的な(閉じた)空間として着目しこの部分を重ね合わせ、干渉させることで新しい柄が生まれるのと同様に空間同士に同じ操作を行うことで『閉じているように見えるが開いた空間』を提案する(fig.6)。

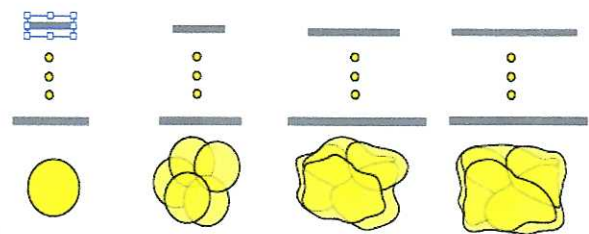


fig.6 閉じているような開いた模様かん

5. プログラム・展望

Folklore Museum を提案する。

Museum 内部に展示されている作品を制作する工房を兼ね備えたオーダーメイドフォークロアのミュージアムショップを併設する。展示自体はコアなものだが、既存のミュージアムとショップの割合をショップに重点を置くことで感覚を反転し美術館の中のショップという認識からショップの中にある美術館という認識の変化を起こす。